

そにいい はなのや イいちし スたをた きーもー みま捨すもう ないてな りぬぬり

わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

5

いかなる祝福^{しゆくふく} 主は捨て去りて^{す さ}
われらに御国を^{みくに} 備えたまいぬ！・^{そな}

6

主よなれは血潮^{ちしお} 捧げたまいぬ！^{ささ}
われらになれのみを^も 持たしめたまえ。

7

主よなが御旨に^{みむね} かなうものならん
かたえにいまして^{みちび} 導きたまえ。

8

死の陰行くとき^{かげゆ} われらを照らし^て
ついに主は御顔を^{みかお} 仰がせたもう。^{あお}

9

主よわれらが死の^{ふち} 淵に立つとも
・ なれをば限りなく^{かぎ} 愛させたまえ。

10

御国にてなれに^{みいだ} 見出ださるまで
われらの愛をば^{まも} 守らせたまえ。